

第2回推進会議資料

町の人口の動きと人口増加への取組み事例

1.南三陸町の人口の動き

- ◇ 人口は震災前に比べ約15%減少……………1
- ◇ 志津川地区・戸倉地区の人口減少が大きい……………2
- ◇ 平成23年に1,315人が社会移動(減少)……………3
- ◇ 人口推計手法(コーホート法)による人口予測……………4

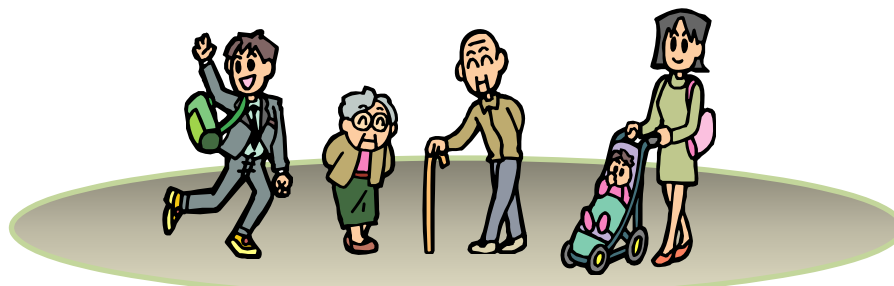
2.仮設住宅入居状況、今後の移転意向

- ◇ 応急仮設住宅に5,500人が住んでいる……………5
- ◇ 今後の移転意向(町内73.9%、町外6.4%、未定等19.7%) ……5

3.「人口の動き」についての話し合いについて

4.人口減への対応・まちづくりの取組み例

- ◇ 海の資源を使ってIターンの増加に取り組む(島根県海士町)^{あまちょう}…7
- ◇ 交流人口拡大:アートによる地域活性化(新潟県十日町市)・8
- ◇ 子育て・教育環境・住環境の充実で人口増(千葉県流山市)・9
- ◇ 交流人口拡大:ニューツーリズムや観光まちづくり……………10



1. 南三陸町の人口の動き

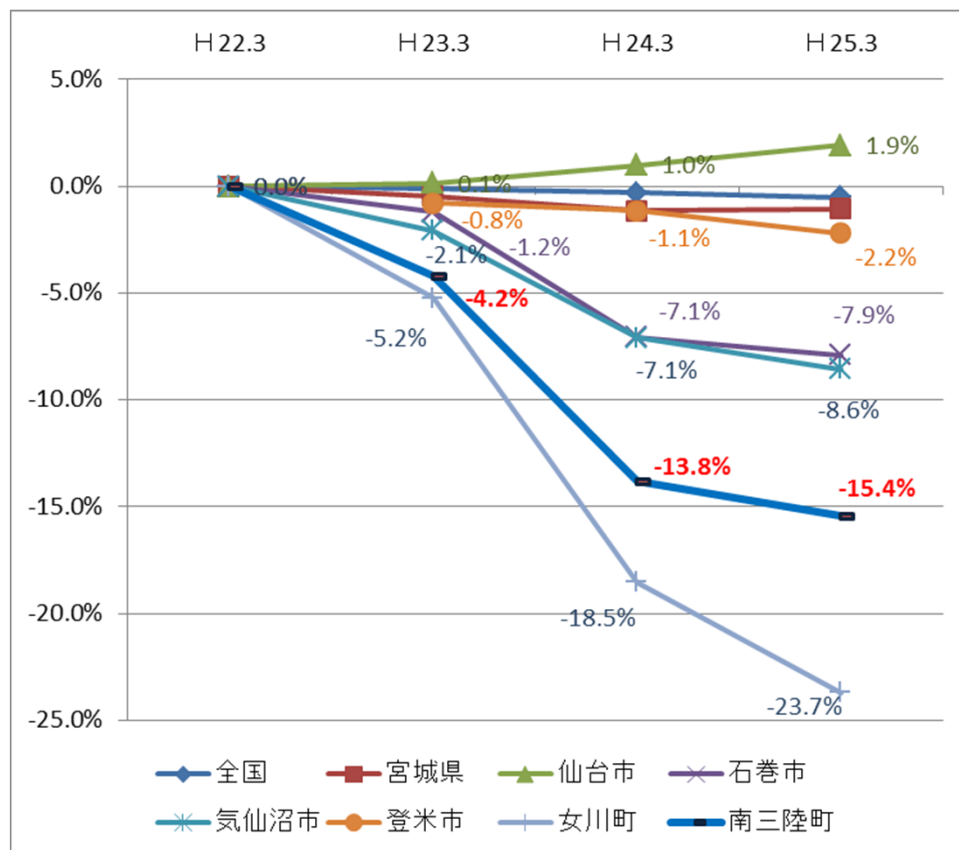
◇人口は震災前に比べ約15%減少

○平成25年3月の人口を震災前の平成22年3月と比較すると、沿岸部の被災地域の減少が大きく、南三陸町は▲15.4%と女川町に次いで大きくなっている。

人口推移(人)				
地区	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3
全国	127,057,860	126,923,410	126,659,683	126,393,679
宮城県	2,329,344	2,318,956	2,302,706	2,304,889
仙台市	1,010,256	1,011,592	1,020,241	1,029,600
石巻市	163,594	161,636	152,025	150,677
気仙沼市	74,926	73,363	69,620	68,502
登米市	86,289	85,611	85,304	84,384
女川町	10,232	9,698	8,335	7,806
南三陸町	17,815	17,063	15,352	15,066

注) 住民基本台帳による各年3月末人口(外国人を含まない)

南三陸町と他地域の人口増減率(単位:%)



1. 南三陸町の人口の動き

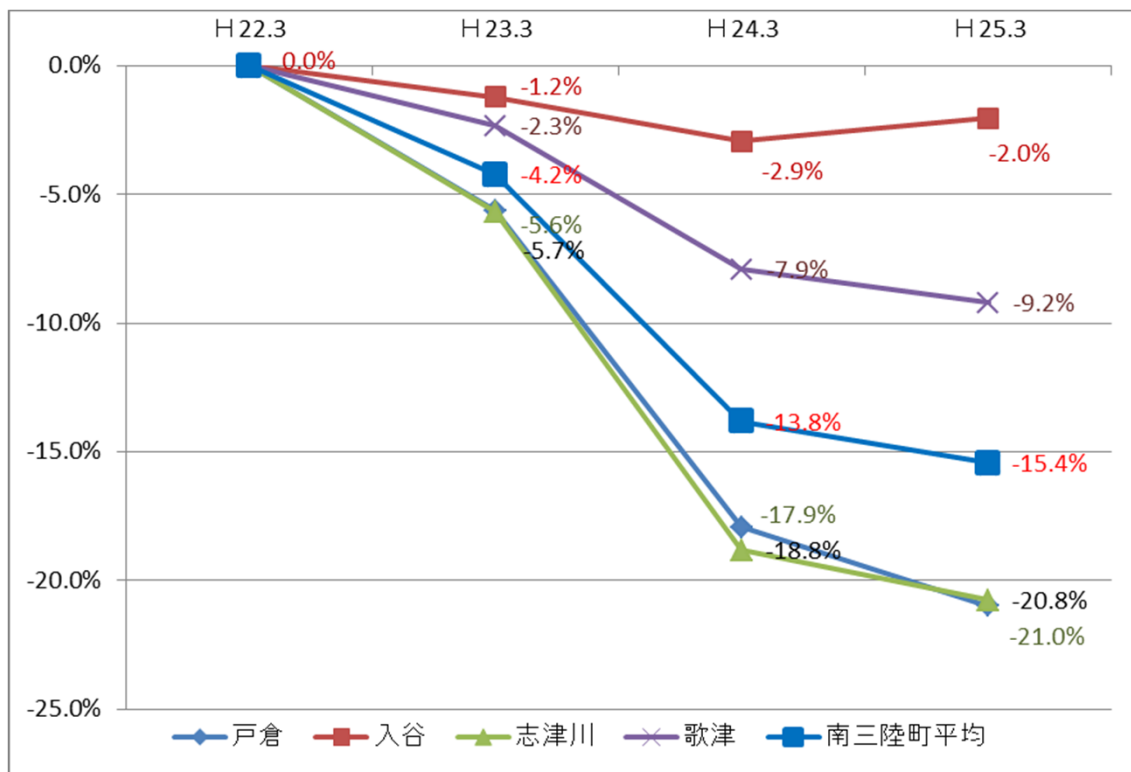
◇志津川地区・戸倉地区の人口減少が大きい

○震災前の平成22年3月31日と平成25年3月31日の人口を比較すると、町全体の平均より志津川地区（▲21.0%）、戸倉地区（▲20.8%）の減少が大きい。

南三陸町地区別人口の推移(実数、人)				
地区	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3
戸倉	2,433	2,296	1,997	1,922
入谷	1,907	1,884	1,851	1,868
志津川	8,294	7,823	6,733	6,572
歌津	5,181	5,060	4,771	4,704
南三陸町計	17,815	17,063	15,352	15,066

注)住民基本台帳による3月末の人口(外国人を含まない)

南三陸町の地区別人口の減少率(H22.3を基準、単位:人)



1. 南三陸町の人口の動き

◇平成23年に1,315人が社会移動(減少)

○南三陸町は、平成23年に1,315人の社会減(増減率▲7.4%)となり、自然減884人を上回った。

○平成23年は隣接する登米市が543人の社会増(増減率0.6%)となっており、南三陸町から登米市に社会移動があったとみられる。

社会増減数(人)			
地区	H22増減数	H23増減数	H24増減数
仙台市	1,232	6,540	9,373
石巻市	-384	-5,428	-766
気仙沼市	-407	-2,398	-679
登米市	-308	543	-187
女川町	-155	-724	-393
南三陸町	-71	-1,315	-254

注)住民基本台帳による1年間の人口増減(外国人を含まない)

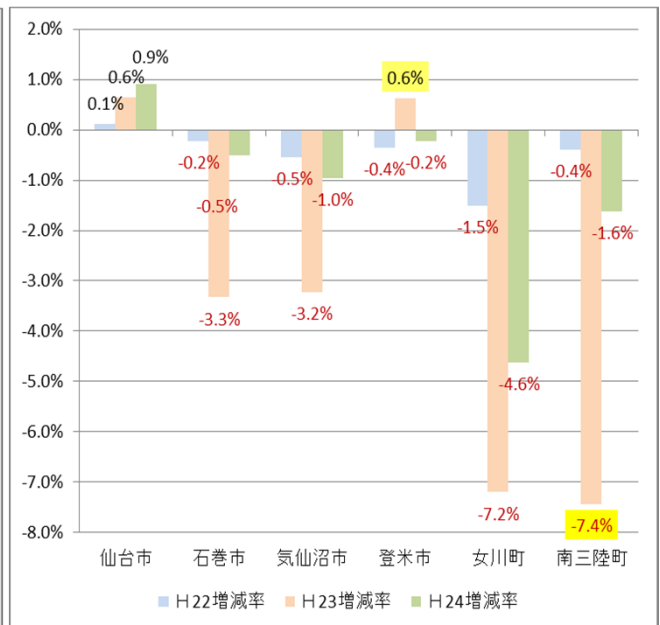
参考:自然増減数(人)			
地区	H22増減数	H23増減数	H24増減数
仙台市	1,982	28	1,548
石巻市	-857	-4,711	-741
気仙沼市	-523	-1,800	-550
登米市	-573	-678	-670
女川町	-105	-890	-76
南三陸町	-183	-884	-111

注)住民基本台帳による1年間の人口増減(外国人を含まない)

社会増減数(単位:人)



社会増減率(単位:%)

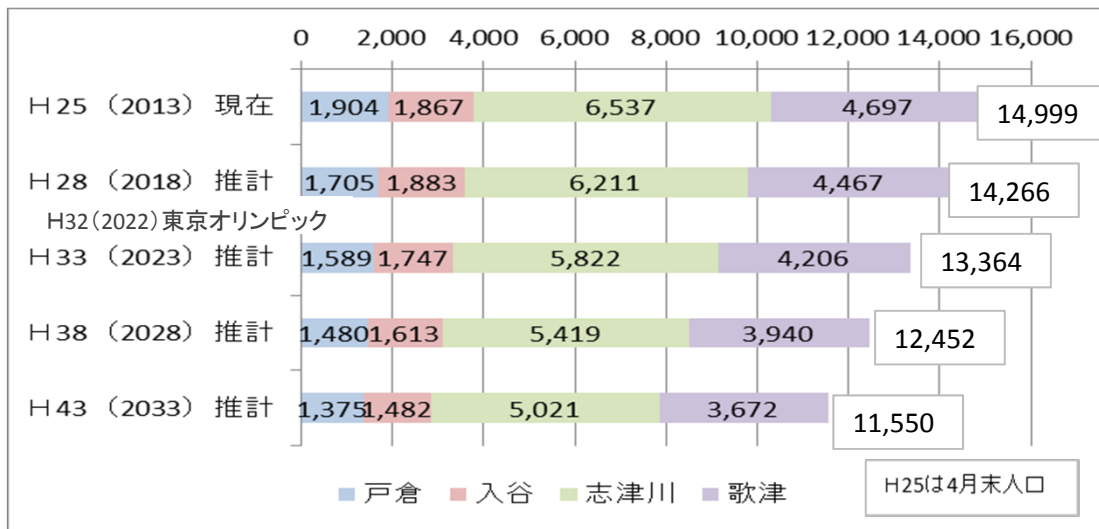


1. 南三陸町の人口の動き

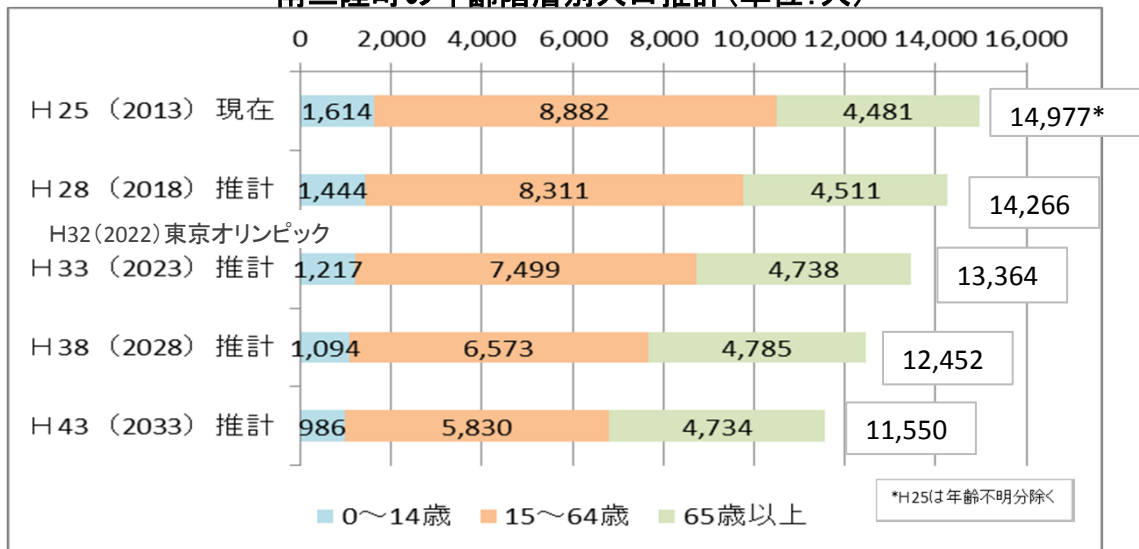
◇人口推計手法(コーホート法)による人口予測

- 一般的な人口推計手法(コーホート法)によると平成33年に13,364人、平成43年に11,550人に減少する可能性がある。(人口増加施策なしと仮定した場合)
- 地区別では**戸倉地区の減少割合が高く**見込まれる。(平成43年に現在より▲28%)
- 高齢化率は平成33年に35%、平成43年に41%**と見込まれる。(現在30%)
- 平成43年に**0~14歳人口が▲39%、15~64歳人口が▲34%**と見込まれる。

南三陸町の地区別人口推計(単位:人)



南三陸町の年齢階層別人口推計(単位:人)



この人口推計は本会議のために事務局が試算しました。

2. 仮設住宅入居状況、今後の移転意向

◇応急仮設住宅に約5,500人が住んでいる。

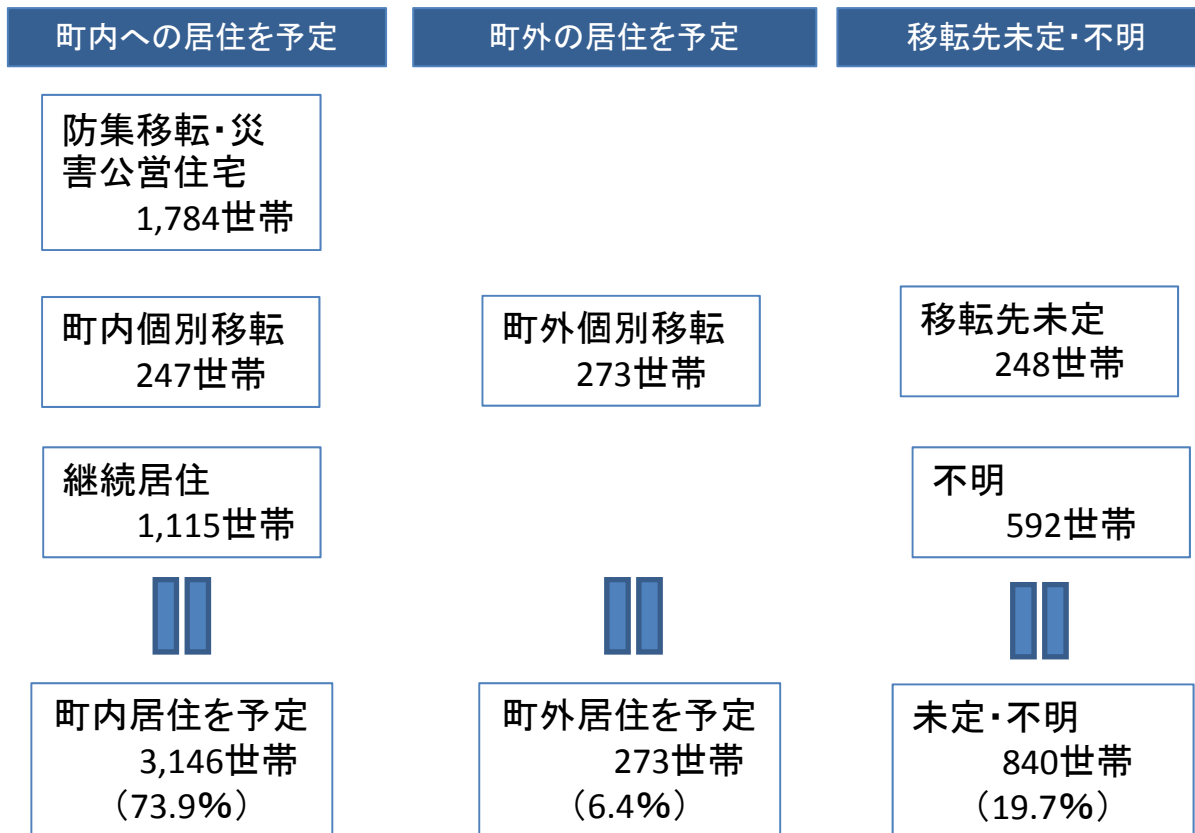
- 8月末現在の仮設住宅入居者は、2,077世帯（5,538人）になる。
- 他に、町内の民間借上住宅に40世帯（134人）が住む。
- 本町出身者が多いとみられる登米市の民間借り上げ住宅は309世帯（910人）が住んでいる。

（出典：宮城県保健福祉部震災援護室集計）

◇今後の移転意向（町内73.9%、町外6.4%、未定等19.7%）

- 平成25年9月に更新した移転に関する意向調査では、防集事業への参加や災害公営住宅、個別移転等で町内への居住予定が3,146世帯（73.9%）、町外への居住予定が273世帯（6.4%）となっている。他は未定、あるいは不明である。

今後の移転意向（町内4,259世帯への意向調査結果：H25.9.8更新）



注) ()内は調査対象世帯4,259世帯に対する割合

3. 「人口の動き」についての話し合いについて

○「1.南三陸町の人口の動き」、「2.仮設住宅入居状況、今後の移転意向」をもとに次の視点からご検討ください。

①震災後、社会移動で人口が減っています。また、今後町内に住むか迷っている人がいます。この理由についてご検討ください。

②コーホート法による試算では今後も人口減少が続く可能性があります。人口減少でどのような問題が考えられるかご検討ください。

4. 人口減への対応・まちづくりの取組み例

◇海の資源を使ってIターン増加に取り組む(島根県海士町)^{あまちょう}

1. 目的

- 少子高齢による生産年齢人口の減少や地方交付税減額による財政危機対策
- 産業の創出、雇用の創出を担う人材の担い手としてIターン者を積極的に受け入れ、島の活性化を図る。



2. 地域概況

- 島根県海士町(約2,400人、高齢化率39%)
- その他: 過疎の島(本土から船で3時間)

3. 取組内容・経緯

- 1998年~町の資源を活用し商品化する「商品開発研修生」募集
 - ・志願者に1年間に月に15万円支給、住まいは町営住宅を格安で提供
- 2004年: 町長を中心に町が「自立促進プラン」を策定
 - ・定住促進策として子育て支援条例を制定
 - ・「海士町の起業者支援」のメッセージを全国に発信
 - ・起業をバックアップするための投資を実施(なまこ加工場に7000万円等)
 - ・「海士ファンファンド」を設立。Iターン者の起業支援のため資金を確保。

【海士ファンファンド】

- ・町で起業する意欲がある人のために、町が島外の人向けに一口50万円を出資を募り、7年後には元本を返済し、その間の利子は海士町の特産物を現物支給(年15000円相当)



★取組成果

- 2004年~2011年: Iターン310人、Uターン173人
- 20歳代から40歳代がIターン
- 起業による町内の特産物のブランド化やヒット商品の創出
- ※商品開発研修生出身で町に定住する人や起業する人が多数。



3. 人口減への対応・まちづくりの取組み例

◇交流人口拡大:アートによる地域活性化(新潟県十日町市)

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」による地域再生

1. 目的

- 「交流人口の増加」、「地域情報発信」、「地域の活性化」の3つを主要な目的とする。

2. 地域概況

- 新潟県十日町市(約5.7万人)、津南町(約1.0万人)

3. 取組内容・経緯

- 2000年以降、3年に1度開催(主要イベントは約50日間、それ以外のイベントは毎年随時実施)
- 集落すべてを展示場として利用(約7万6千ha)

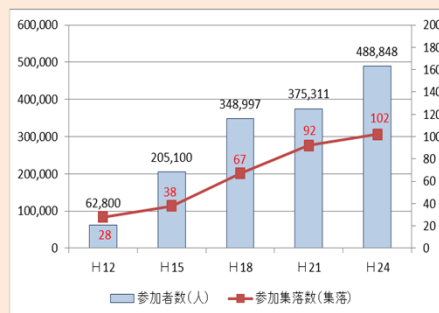
4. イベント概要

- 作品:越後妻有地域の歴史や自然の魅力を活かした国際的発信力を持つもの
- 募集:国内外の有名アーティストに呼びかけ一般公募の審査(参加料1000円)
- 体制:
 - ・実行委員会:県、市、経済団体、民間企業、住民組織、(事務局:市)
 - ・NPO法人越後妻有里山協働機構:現場運営の母体で地域内外の人員で組織
 - ・地域住民:住民作品の設置場所の提供や作品づくりなどに協力
 - ・ボランティア:作品づくりや運営に参加(2012年:3,991人参加)



★取組成果

- 山村空間を活用した作品、古民家の中、廃校を活用したアートにより地域が活性化し、**H24に全国および海外から入込数約49万人、参加集落102に成長**
- 来訪者、こへび隊(ボランティア組織・首都圏のOL等が参加)、アーティストとの交流が**地域コミュニティを活性化**させた。
- この大地の芸術祭のボランティア活動を通じて**移住する人が増えてきている**。
- 県内における**経済波及効果は46億円**。
- テレビ、新聞等で取り上げられ、**広告換算すると約14.5億円**にのぼった。



3. 人口減への対応・まちづくりの取組み例

◇子育て・教育環境・住環境の充実で人口増(千葉県流山市)

- 「母になるなら流山市」…千葉県流山市は、子育てしやすい街をアピールし、**子育てや教育環境を充実し、良質な住環境の整備**に力を入れている。
- 子育て世帯に選ばれる街になるための方針として、次の柱を立てている。
①財政健全化、②良質な住環境の整備、③子育て・教育環境の充実。
- 子育て・教育環境の充実では、許認可保育園の新設・増設により、定員数を2009年度に比べて67%増やし、2014年に待機児童ゼロを予定する。
- また、全中学校にALT（外国語指導助手）を、小学校をネイティブのスーパーバイザー（小学校英語指導員）が巡回している。
- また、駅に「送迎保育ステーション」を置き、親が子供を預けると各保育園まで送迎するので、共働きの家庭が大いに助かっている。
- また、「さくらんぼクラブ」や「子育てサロンコンサート」など、子供向けや子供教育向けなどのイベントが多数用意されている。



★取組成果

○平成24年は平成17年と比較して**人口が1万人以上増加**した。常磐新線（つくばE X）開業の要因もありますが、子育て支援に市が取り組んだ結果、**30歳代の若いファミリー世代人口が増加し最も人口の多い世代**となった。さらに、4歳以下の子どもの数も増え、**合計特殊出生率が1.49となり、全国平均1.39を超えた。**

流山市の人口推移(住民基本台帳)



3. 人口減への対応・まちづくりの取り組み例

◇交流人口拡大：ニューツーリズムや観光まちづくり

○これまで観光資源にならなかったものが、既存観光にとって変わり、観光入込上位を占める時代になっている。地域観光は、地域資源を活かす観光「**ニューツーリズム**」「**観光まちづくり**」「**着地型観光**」に取り組む必要がある。

○ニューツーリズムは、名所旧跡を巡る観光ではなく、身近な日常に面白さを探す日常型と特別感動体験を求めるものに二極化しており、様々なものがある。

例) エコツーリズム(自然体験)、ジオツーリズム(景観観光)、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、フードツーリズム、スポーツツーリズム(トレイルやマラソン大会等)、産業ツーリズム、アニメツーリズム(聖地巡礼)、森林ツーリズム(森林浴)、スタディツーリズム(教育旅行)、鉄道・動物観光(ねこ駅長等)、女子旅・山ガール 等

○観光とまちづくりを分けて計画するのではなく、観光開発が地域住民の豊かさにつながる**観光まちづくり**が求められている。

○**着地型観光**は、地域が地域資源を活かして自ら観光商品の企画をしていくため、素材の発掘や企画・実現していく仕組みが必要である。スポーツツーリズムと女子旅組み合わせ例



★様々な成功事例の一部

○**復興かきオーナー制度(応援ファンド)**：三陸復興を支援する目的で復興かきオーナーが募集され、**3か月間(第1次募集)で1万6千人、2万1千口(2億1千万円)が集まった**。南三陸町でも12人の漁業者に物資購入という形で一部が渡されている。

○**伊勢神宮門前町のまちづくり観光**：伊勢神宮の門前町であるおはらい町は車で来る参拝者が立ち寄りなくなり昭和50年代に寂れてしまった。そのような中、「赤福」がおかげ横丁をつくり、「伊勢造り」にこだわったまち並みと「おもてなしの精神(施行)」でまちづくりをすすめて、**平成22年に441万人と事業前の約20倍の人が訪れるまでに発展している**。

